

それって自分のもの？

社会科の学習で自動車工場の見学に行きました。ベルトコンベアーの上を自動車が流れ、たくさんの機械が火花を散らしながら部品を取り付けていました。

翌日の社会科の時間、コンピュータを使って見学したことを新聞にまとめることになりました。先生が言いました。

「インターネットで参考になる自動車工場のホームページをいくつか選びました。新聞をまとめるときにはその中のものを使っていいです。ただし、自分の新聞に絵や写真や文章をそのまま使うときはどのホームページのものを使ったかわかるように書きます。それは引用といって大切なことです。」

コンピュータ室で新聞づくりが始まりました。見学に行ったときにメモをしたノートを手にしたリ、ホームページを見たりしながらみんな真剣にまとめています。

そんな中、美恵さんは先生に質問をしました。

「ホームページのものはどのくらい使ってもいいのですか。」

「いい質問だね。自分の文章や班でとった写真のほうが多いほうがいいね。ホームページを貼り付けるばかりだと自分の作品とは呼べなくなるからね。」

先生は答えました。

そのやり取りを隣で弘紀君も聞いていました。最初は、自分のノートを見ながらまとめていきましたが、どうもうまくいきません。そこで、先生が選んだホームページを見ていきました。自動車を組み立てているきれいな写真やわかりやすい説明が目にとまりました。

「これを使えば新聞が仕上がるぞ。」

弘紀君は、ホームページの内容をコピーして自分の新聞に貼り付けていきました。コンピュータを使うと簡単なので、新聞づくりがどんどん進みます。気がつくと、紙面のほとんどはコピーしたイラストや文章で埋められていました。引用を書こうと思いましたが、面倒になって何も書きませんでした。

美恵さんは、ホームページのイラストを一つだけコピーして貼り付けました。先生の言われたように、引用としてホームページの名前も書き込みました。でも、頑張つて紙面の半分以上は自分の感想や取材したことをもとにして新聞作りをしました。出来上がった作品を見てとても満足しました。なぜ、先生が引用をきちんと書きなさいといったのが、自分が苦労してまとめたことで少しだけわかったような気がしました。

出来上がった新聞を発表する日になりました。自動車見学の発表を一人ずつ前に出たのです。美恵さんは、もちろん引用したホームページも紹介しました。

弘紀君の発表になりました。ほとんどすべてがコピーでしたが、そのことには一切触れませんでした。弘紀君の新聞を見て友だちがいいいました。

「イラストがきれいだな。」「文章も上手だね。」

弘紀君は、コピーしている記事を誉められてどう返事をすればいいのかわかりませんでした。

全員の発表が終わった後で、先生がお話をしました。

「みんな上手にまとめていますね。中でも美恵さんは使った資料の名前を正確に書いていました。コピーした工場のイラストは何日もかかって作っているのかもしれない。引用を書かずにコピーしたら、その人が作ったものをまるで自分のもののように扱うことになります。ホームページなど、インターネットの向こう側にも必ず作った人がいます。引用は人のイラストや写真、書いた文章を大切にするという意味でも必要なことです。それを作った人が知ったらどう思うでしょう。」

それを聞いた弘紀君は「ハッ」としました。